

三本木原開墾沿革大要

三本木原大規模開墾期成會

## 三本木原開墾沿革大要

### 一、新渡戸傳翁父子ノ開墾事業ノ概況

吾人開墾ヲ熱望スル三本木平ハ昭和八年パンフノ太平洋會議ニ出席歸途病ヲ得テ北米加奈陀ニ物故セラレタル新渡戸稻造博士ノ祖父傳並ニ親父十次郎ノ心血ヲ濺カレシ遺蹟ノ地ニシテ恰カモ此開墾ノ創始ハ安政二年當時ノ計畫タルヤ現在上北郡南半部三町三本木  
百石戸六ヶ村十和田、藤坂、六戸  
七戸下田、三澤、大深内ニ跨ル一萬餘町歩之カ水利ハ奥入瀬川ノ上流ニ分チ中里、熊ノ澤ノ二流ヲ合シ高丘ヲ通スル一丈餘ノ地下ニ墜渠ヲ穿ツ大溝ヲ開鑿スルコト八千百十四間支溝ヲ開設スルコト九千二百間漸次開田數百町歩ニ及ヘリ益々事業ノ擴張ヲ期シ復墜道ヲ開堀中惜イ哉十次郎氏卒シ傳翁亦明治維新ノ革命ニ際會シ身士籍ニアルヲ以テ事業ヲ顧ミル暇ナク明治四年又逝ク茲ニ於テ事業全ク廢絶シ大小溝渠年ヲ逐フテ崩礪スルモ修繕スルモノナク僅カニ熊野澤ノ河水ニ依リ耕作ヲ繼續スル狀態ニ化セリ

### 二、明治大帝ノ聖旨ニ鑑ミ地方官民發奮

明治九年明治大帝北海道御巡幸ノ當時三本木ニ御休憩アラセラル時ノ權參事塙谷良幹ヨリ傳翁ノ開墾事歴ヲ伏奏シ優渥ナル御沙汰ヲ拜シ屬從ノ諸卿モ又親シク聞カル超ヘテ全十四年東北御巡幸ノ勅リ傳翁舊宅ニ聖駕ヲ駐メサセラレ開墾再興ノ勅旨ヲ賜ハリシト拜聞シ地方官民齊シク感激措ク處チ知ラス先ツ時ノ上北郡長藤田重明基礎確立ノ爲メ開墾再興ノ議ヲ松方内務卿ニ建言シ縣令山田秀典又松方内務、佐野大藏、河野農商ノ三卿ニ開墾資金貸下官有地拂下及結社ノ請議ヲ提出シ斯クシテ

明治十五年西郷農商務卿ヨリ起業資金トシテ貳萬貳千圓御貸下ケ結社詮議ノ令達ヲ受ケタリ

### 三、三本木共立開墾會社創立及經過

爰ニ於テ藤田上北郡長官職ヲ辭シ同志ト相提携シ明治十七年四月三本木共立開墾會社ヲ創立シ又選ハレテ之カ社長トナリ資本金ト恩借金トヲ合シテ再興事業費ニ充テ一面官有地ノ豫約成功拂下ヲ請願シ他面技術員ヲ招聘シ破礪セル取入口ノ修築填塞セル大小溝渠ノ浚渫ヲ行フ等漸ク全二十年ヲ以テ其ノ功ヲ終ヘ舊態ニ復スルヲ得爾來成績見ルヘキモノ多ク爲ニ開墾ヲ希望スルモノ陸續トシテ顯ハル、ニ至レリ

### 四、三本木開墾株式會社ノ經過概要

前記會社ハ明治廿三年法律第三十二號商法ノ實施ニ伴ヒ株式組織ニ變更シ全廿七年三本木開墾株式會社ト改稱スルト共ニ既定計畫ニテハ到底其ノ希望ヲ充ス能ハサルヲ以テ其計畫ヲ擴張シ株式ノ増募ヲ行ヒ起業地三千餘町歩ヲ帝室林野御料局ニ仰キ銳意開墾ニ努力セルモ其成功検査ノ結果造林開畠ノ多キ反面ニ開田尠シトノ事由ニ拂下不許可ノ運命ニ傾ケリ時ノ縣知事田中武雄氏之ヲ憂慮セラレ當會社長廣澤安宅ヲ始メ主ナル株主數名ヲ廳ニ招致シ諭スニ前項ノ事實ヲ以テシ併セテ今後ノ奮起補給水ノ計畫ヲ要望セラル

茲ニ於テ大正二年十一月當會社ハ左記請書ヲ右縣知事ヲ通シテ御料局ニ致シ斯クシテ拂下ヲ得タルハ周知ノ事實ニシテ苟クモ之カ土地所有者ハ其ノ達成ヲ見サル限り永久ニ責務ヲ負フヘキナリ

## 請書

今般拙者共御呼出に相成御諭達の旨を敬承仕り即ち協議を遂け候處目下當會社より御拂下け出願に係る豫約開墾御料地へ經營し來れる事業は御談示の如く概して粗墾たるは蔽ふへからざる事實に有之候得共御拂下を許可被成下各自所有致し候上は直ちに賣却等不致のみならず上水擴張等適當なる方法により開墾の程度を進め御拂下の高旨に添ひ可申事に決定致候

拙者共一統を代表し請書提出候也

署名者社長廣澤安宅外三名

爾來水路ノ整理既墾田ノ整理鑿井ノ計畫等補給水ヲ得テ増田ニ努メ將サニ實現ヲ見ントスルノ時偶々環境ノ事情惡化シ時ノ知事道岡秀彦氏ノ協調ニ餘議ナク會社關係水路並ニ水利ニ關スル一切ハ稻生川普通水利組合ニ引繼クコト及ヒ五年以内ニ耕地整理組合ヲ組織スヘキコトヲ條件ノ一二加へ會社ハ臨時總會ヲ招集シ解散ヲ斷行スルト共ニ右組合組織費用トシテ財產ノ内金六千圓ヲ寄附スルノ決議ヲナセリ時ニ大正十一年十月

### 五、稻生耕地整理組合組織會ノ設立

斯クシテ設立ヲ見タルハ稻生耕地整理組合組織會ニシテ之カ會員ハ舊三本木開墾株式會社株主ヲ以テス縣又技術官ヲ派遣セラレ調査ハ漸次進行シ大正十五年九月縣農林技手高山三次郎ノ手許ニ開田豫定參百五拾町歩ノ設計書作成ヲ見ルニ至レリ之ヨリ先キ與入瀬川ノ流水量少ク用水ヲ同川ニ求

### 六、三本木原大規模開墾期成會ノ設立並ニ其經過ノ梗概

ムルコト困難ナルヲ以テ縣ハ農林省ニ水利利用上ニ付指揮ヲ請ハル全省ハ全年八月技師可知貫一氏ヲ派シ十和田湖及其流域一帶ヲ踏査ノ結果大規模開墾地トシテ最モ有望ナリト認メ更ラニ農林技手君塚貢、竹盛益見ノ兩氏ヲシテ精査セシメラレ愈々十和田湖水ヲ水源トスル三本木原ノ大規模開墾ハ全國中第一優秀候補地トナルニ至レリ

超ヘテ昭和二年ノ春農林省ニ國營開墾計畫ノ議アリ知事小柳牧衛氏ヨリ當三本木原ヲ全開墾豫定ノ一二加ヘラレ度申請セラレ農林省マタ認容セラレシト聞キ及ヒ地方地主並ニ有志敢然起チ稻生耕地整理組合組織會ト叫合シ廣々開田希望者ヲ募リ昭和二年五月實現運動機關ヲ設立セリ名ツケテ上北（後チ三本木原ト改稱）大規模開墾期成會ト稱ス昭和二年七月農林省技師須藤廉氏其ノ主任トシテ技手君塚貢ヲ同伴當大規模開墾豫定地ノ實地踏査ヲ手首メニ年々數名ヨリ成ル調査班ヲ送ラレ縣又應援トシテ數名ツ、ノ技術員ヲ派遣サレ相俱ニ銳意調査ヲ續行シ全七年九月農林省技手君塚貢縣技手早川靜海兩氏ノ調査ヲ以テ終結トシ茲ニ三本木原三千五百町歩ヲ浸潤スヘキ主要幹線水路ノ設計調査全ク成リシト聞ユルモ未タニ其ノ實行ヲ見得サルハ洵ニ遺憾ニ耐ヘサルナリ

而シテ昭和二年以來當會目的達成ノ爲ニ關係官廳並ニ要路ニ對シ陳情請願等回ヲ重ヌルコト百數十餘回ヲ算シ内書狀提出ノ分ヲ舉クレハ左ノ如シ

### 一、國營開墾ノ儀ニ付請願書

農林大臣宛

昭和二年

一町六ヶ村長及稻生耕地整理組合  
組織會役員提出

一、大規模開墾促進方二付請願

縣 知 事 宛

六昭和二年

一、大規模開墾速成請願書

農 林 大 臣 宛

六昭和二年

一、國營大規模開墾促進方二付稟請

農 林 大 臣 宛

十一昭和二年

一、國營大規模開墾ニ關シ十和田湖

名勝天然記念物指定ニ付陳情

內 農 林 稟

務 大 臣 宛

昭和二年

農 林 稟

事 宛

十二月

一、三本木原開墾實施請願

農 林 稟

事 宛

三昭和三年

農 林 稟

事 宛

三昭和三年

一、三本木原開墾實施請願

農 林 稟

事 宛

三昭和三年

關係町村長及期成會役員提出

關係町村長及期成會役員提出

關係町村長及期成會役員提出

大 藏 大 臣 宛

三昭和三年

一、陳 情 書

國營開墾實施ニ就テ

農 林 大 臣 宛

十昭和三年

關係町村住民千七百六十七人提出

一、耕地整理地區設計調查申請書

縣 知 事 宛

十昭和三年

關係町村長及期成會役員提出

一、大規模開墾實施促進申請書

農 林 大 臣 宛

四昭和五年

關係町村長及期成會役員提出

一、三本木原大規模開墾促進方二付請願

農 林 大 臣 宛

七昭和五年

關係町村長及期成會役員提出

一、陳 情 書

開墾促進援助方ニ就テ

青森縣町村長會

上北郡分會長 宛

七昭和七年

三本木原大規模開墾期成會提出

縣 知 事 宛

七昭和七年

三本木原大規模開墾期成會提出

縣 知 事 宛

七昭和七年

三本木原大規模開墾期成會提出

上北大規模開墾期成會長提出

關係町村住民六百二十七人提出

- 一、陳情書 開墾着手ニ就テ  
農林大臣宛 昭和七年 上北郡町村長會提出
- 一、歎願書 観察状況ニ關シテ  
大藏省主計局事務官宛 昭和八年 三本木原大規模開墾期成會提出
- 一、陳情書 開墾地區調査等ニ關シ援助方ニ就テ  
縣耕地整理協會會長宛 昭和八年 三本木原大規模開墾期成會提出
- 一、陳情書 開墾地區調査豫算計上ニ就テ  
縣知事宛 昭和八年 三本木原大規模開墾期成會提出
- 一、陳情書 開墾實現ニ就テ  
農林大臣宛 昭和八年 三本木原大規模開墾期成會役員提出
- 一、請願書 開墾實現促進ニ就テ  
農林大臣宛 昭和九年 三本木原大規模開墾期成會役員提出
- 一、請願書 開墾實現促進ニ就テ  
農林大臣宛 昭和九年 三本木原大規模開墾期成會役員提出
- 一、陳情書 開墾實現促進ニ就テ  
農林大臣宛 昭和九年 三本木原大規模開墾期成會役員提出
- 一、耕地整理地區設計調查申請書  
縣知事宛 昭和九年 關係町村民千九十七人提出
- 一、陳情書 國營開墾國立公園兩立ニ就テ  
農林大臣宛 昭和九年 關係町村民九百二十五人提出
- 一、陳情書 開墾促進ニ就テ  
農林大臣宛 昭和九年 關係町村民九百十八人提出
- 一、陳情書 開墾促進開墾地區調査ニ就テ  
農林大臣宛 昭和九年 關係町村民九百十八人提出
- 青森縣各縣會議員宛 關係町村長及期成會役員提出
- 七、結論  
以上叙述ノ如ク當開墾ハ安政二年今ヲ距ル八十年前ノ經營ニ始マリ後チ經營者ノ變替アリト雖傳統的ニシテ其間二回ニ亘ラセラレ畏クモ  
明治大帝聖旨ヲ賜ハリ國帑ノ貸下ニ恩浴シ加フルニ地區面積ノ半ハ皇室御拂下ノ土地ナル思ハ、一日ノ遲延ヲ許サ、ルナリ實ニコノ地開墾ハ地方住民ニ與ヘタル一大使命ニシテ開畑殖林ノ程度ニテ其ノ責任ヲ免レ得サル所吾人開田要望シテ已マサル所以ハ爰ニ存スルナリ是非トモ縣國ノ援助ノ下ニ統制アル水利完成ニ努メ國家永遠ノ米產地ト爲シ以テ聖慮ニ副ヒ奉ランコトヲ期ス (了)

## 三本木原大規模開墾期成會規約

- 第一條 本會ハ三本木原大規模開墾期成會ト稱ス
- 第二條 本會ハ國及縣ノ事業トシテ上北南半部ニ亘ル未墾地大規模開墾實施ノ促進ヲ目的トス
- 第三條 本會ハ大規模開墾關係町村長及有志稻生耕地整理組織會及其會員ヲ以テ會員トス
- 第四條 本會ノ事務所ハ三本木町ニ置ク
- 第五條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
- 一、大規模開墾期成運動
- 一、大規模開墾ニ關スル設計調査及工事等ヲ進捗セシムル事項
- 第六條 本會ハ左ノ役員ヲ置ク
- |       |           |
|-------|-----------|
| 一、顧問  | 若干名       |
| 一、會長  | 一名        |
| 一、副會長 | 二名        |
| 一、理事  | 十名        |
| 一、監事  | 三名        |
| 一、評議員 | 關係町村各二名ヅ、 |
- 第七條 顧問ハ本會員及本會ニ關係深キモノヲ總會ニ於テ推薦ス
- 顧問ハ理事會、總會及評議員會ノ諮詢ニ答フルモノトス
- 第八條 會長、副會長、理事、監事及評議員ハ會員中ヨリ選任ス
- 第九條 會員ハ本會員ヲ代理人トシテ前條ノ選舉權ヲ行フコトヲ得
- 第十條 會員ノ有スル表決權ハ各一個トス
- 第十一條 會長、副會長、理事、監事及評議員ノ任期ハ各二ヶ年トシ再選ヲ妨ケス
- 第十二條 會長ハ本會員ヲ代表シテ一切ノ事業ヲ總理ス  
但シ會長事故アル場合ハ副會長之レヲ代理ス
- 第十三條 理事ハ會長ヲ補佐シテ本會ノ事務ヲ處理ス  
理事ハ互選ヲ以テ當任理事三名ヲ選舉ス
- 第十四條 常任理事ハ理事會ノ決議ニ基ヅキ日常ノ事務ニ從事ス
- 第十五條 評議員會ハ會長ノ提出シタル事務會計ニ付評議スルモノトス
- 第十六條 評議員會ニ提出スル案ハ理事會ノ決議ヲ經テ行フモノトス
- 第十七條 監事ハ本會ノ取扱ヒタル事務及會計ヲ監査ス
- 第十八條 會長ハ理事會ノ決議ヲ經テ有給ノ書記ヲ任用シ事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得
- 第十九條 會長、副會長、理事、監事、顧問、評議員ハ無給トス  
但シ本會用務處辨上必要ナル實費ハ本會ヨリ交付スヘシ
- 第二十條 本會員ハ會費ヲ負擔スルモノトス

但シ金額及負擔方法ハ總會ノ決議ヲ經テ之レヲ行フモノトス  
 總會、理事會及評議員會ノ議事ハ出席者ノ過半數ヲ以テ決ス  
 可否同數ナル時ハ議長ノ決スル處ニヨル

第廿二條 總會理事會評議員會ノ議長ハ會長之レニ當ル

但シ會長事故アル場合ハ副會長之レヲ代理ス

第廿三條 本會ノ目的ヲ達成スル爲メニ要スル費用ハ左ノ收入金ニヨル

一會 費

一寄 附 金

一反 別 割

第廿四條 本會ノ會計年度ハ四月一日ヨリ翌年三月三十日ヲ以テ終ル

第廿五條 本會ハ毎年五月會員總會ヲ開キ前年度ノ事務會計ノ報告ヲナシ次年度ノ豫算ヲ附議シ又會長ニ於テ必要ト認ムル事項ヲ附議ス

但シ理事三名以上ノ意見ニヨリ必要ノ場合ハ臨時總會ヲ開クコトヲ得

第廿六條 本會ノ入會及脫會ハ理事會ニ於テ之レヲ決定ス

但シ入會ノ場合ハ其年度中ノ會費ヲ負擔スルモノトス

脫會セントスル場合ハ其年度中ノ會費ヲ負擔シ尙既ニ支出シタル會費ハ本會ニ於テ脫會者ニ返戻セザルモノトス

### 第廿七條

反別割ハ理事會ノ承認ヲ經タル開田希望申込者ヨリ之レヲ徵收ス  
 但シ金額及負擔方法ハ總會ノ決議ヲ經テ決定ス

事業實施ノ結果希望反別力全部實施サレサルカ又ハ其反別ニ充タサル時ハ其部分ニ對スル反別割ハ之レヲ清算ノ上還付

尙本開墾事業不成功ニ終リタル時ハ既納ノ反別割ハ之レヲ還付セス

本會ハ大規模開墾達成若シクハ總會ニ於テ必要ト認メタル場合ハ解散ス此場合殘餘財產アルトキハ總會ニ附議シテ處分スルモノトス

### 現 在 役 員

副 會 長 遠 藤

副 會 長 下 水

副 會 長 川 崎

副 會 長 田 石

副 會 長 澤 野

副 會 長 陳 柳

副 會 長 新 兵

副 會 長 勇 好

副 會 長 長 長

藤 坂 戸 深 内 村 村 村 村 村

長 長 長 長 長 長 長 長 長 長

監事評議員

三本木町

下田村  
百石町  
大深内村

百石町

田立田川袴柏櫻土 昆齋石伊南田井

昆齋石伊南田井

四

主

友

次

四

卷之三

藤坂村

佐廣竹小田吉

# 山ヶ澤久

大澤申田

乙春 市之原

已春 之 隅  
伊 次

吉彦七郎孝橘

崎

# 中崎畠口田田

市

仁助貴泰良惣太

助定德藏見鄙一覽

昆齋石

七

卷之三

士澤

八

歐志偉

郎吉健

裏面白紙